

令和4年火災・救急概況

南消防署
1月1日～1月31日

1 南区火災・救急状況

区分 \ 年別	令和4年	令和3年	増△減	
火災件数	5	3	2	
火災種別	建物	3	3	0
	林野	0	0	0
	車両	0	0	0
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	2	0	2
焼損床面積 (m ²)	12	0	12	
死者 (人)	0	0	0	
負傷者 (人)	1	0	1	
主な火災原因	放火(疑い含む)	2	0	2
	配線器具	1	0	1
		0	0	0
		0	0	0
救急出場件数	1,281	1,081	200	
救急種別	急病	928	774	154
	一般負傷	232	191	41
	交通事故	36	40	△4
	その他	85	76	9

2 横浜市火災・救急状況

区分 \ 年別	令和4年	令和3年	増△減	
火災件数 (件)	58	66	△8	
焼損床面積 (m ²)	246	2,492	△2,246	
死者数 (人)	2 (1)	4 (0)	△2	
負傷者数 (人)	6	10	△4	
救急出場件数 (件)	20,167	16,422	3,745	
救急種別	急病	14,027	11,468	2,559
	一般負傷	3,939	2,935	1,004
	交通事故	715	674	41
	その他	1,486	1,345	141

* 死者数欄()内の数値は、放火自殺者の内数

3 行政区別火災・救急状況

区分	年別	火災			救急		
		令和4年	令和3年	増△減	令和4年	令和3年	増△減
行政区別件数	鶴見	4	6	△2	1,556	1,194	362
	神奈川	4	2	2	1,172	1,038	134
	西	4	0	4	763	587	176
	中	5	12	△7	1,392	1,190	202
	南	5	3	2	1,281	1,081	200
	港南	2	6	△4	1,241	948	293
	保土ヶ谷	5	2	3	1,104	973	131
	旭	5	1	4	1,338	1,091	247
	磯子	3	1	2	989	816	173
	金沢	1	5	△4	1,088	897	191
	港北	3	6	△3	1,569	1,261	308
	緑	2	1	1	892	736	156
	青葉	5	4	1	1,215	979	236
	都筑	1	3	△2	876	638	238
	戸塚	4	4	0	1,415	1,215	200
	栄	2	2	0	657	558	99
	泉	2	4	△2	897	678	219
瀬谷	1	4	△3	720	539	181	

※本年数値は速報のため、変更することがあります。また、表は前年同時期との比較です。

4 連合町内会・受持消防団別火災件数

連合町内会名	火災件数	受持消防団
太田東部連合町内会	0	1分団
太田地区町内連合会	1	
寿東部連合町内会	0	2分団
中村地区連合町内会	1	
蒔田連合町内会	1	3分団
お三の宮地区連合町内会	0	
堀ノ内睦町連合町内会	1	
井土ヶ谷地区連合町内会	0	4分団
北永田地区連合町内会	0	
永田みなみ台連合自治会	0	5分団
本大岡地区町内会連合会	0	
大岡地区連合町内会	0	
別所地区連合町内会	1	6分団
南永田・山王台連合町内会	0	
六ツ川地区連合自治会	0	
六ツ川大池地区連合自治会	0	1～6分団
連合未加入自治会、その他	0	
合計	5	

5 南消防団受持地域別火災件数

分団名	発生件数 (件)
第1分団	1
第2分団	1
第3分団	2
第4分団	0
第5分団	0
第6分団	1
合計	5

かわら版(2月号)

発行者：南消防署

予防係

南永田山王台連合町内会が 2年間の連続無火災を達成!

日時:令和4年1月20日(木)

場所:南区役所701会議室

内容: 南永田山王台連合町内会が令和元年12月30日から令和3年12月30日までの2年間無火災を達成されましたので、「市民防災の日」南区推進委員会の委員長である松山南区長から南永田山王台連合町内会長の岩田会長へ感謝状が贈呈されました。

同連合町内会は、地域住民及び地元消防団が日頃から出火防止活動等に積極的に取り組んでおり、平成29年3月から平成31年の2年間にも無火災を達成しています。

昨年は、一昨年に比べ12件火災が増加するとともに、既に本年1月には5件の火災が発生しております。改めまして出火防止に御協力をお願いいたします。



表彰式の様子



(左から松山南区長、岩田会長、今山南消防署長)

警防課

震災対策訓練を実施しました

日時:令和4年1月19日(水)、20日(木)

場所:南消防署(南区浦舟町2-33)

内容: 横浜市内で震度7強の地震が発生したことを想定した震災対策訓練を実施しました。

この訓練は、発災直後の初動対応訓練と発災から18時間経過した時点での災害受信や部隊運用等が具体的な災害シナリオに基づいて行われ、職員一人ひとりがそれぞれの役割を再確認し、実災害に即した訓練になりました。

災害はいつ起こるかわかりません。1月はトンガ沖大規模噴火・津波により世界各地で被害が発生しました。いざという時に、迅速・確実な活動ができるよう、南消防署は万全な備えを進めていきます。



作戦本部



訓練の様子

